

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

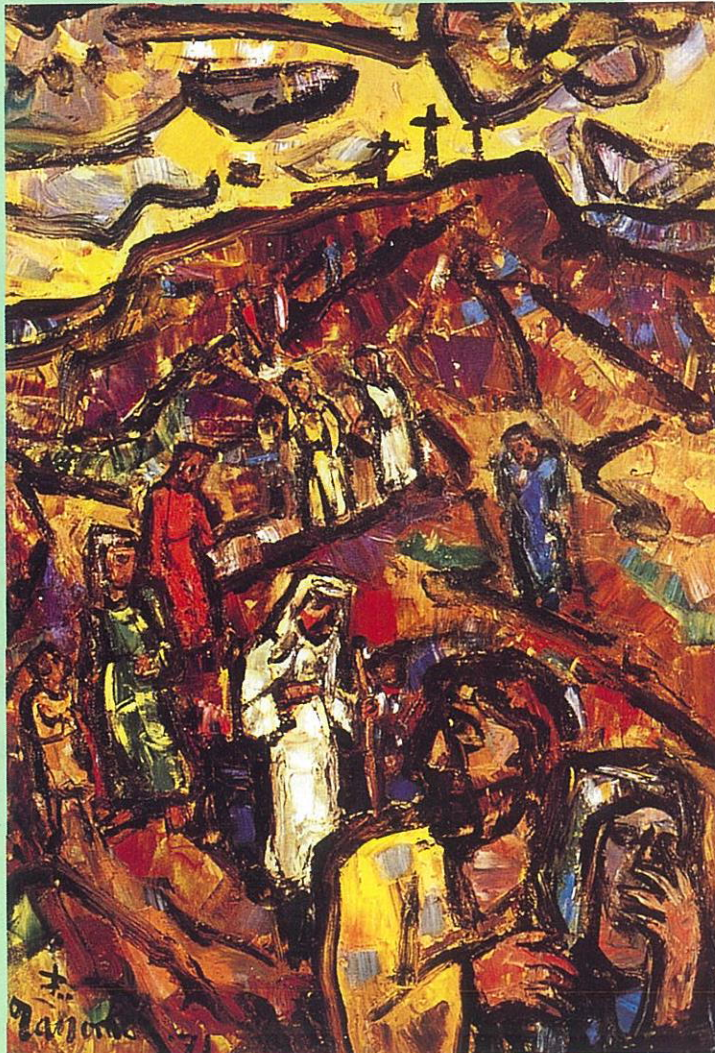
# KEIWA

## 第13号

〈FEBRUARY 1998〉

発行/敬和学園大学広報委員会

## COLLEGE REPORT



CLOSE UP 献堂式における式辞 北垣宗治

〈第七回〉敬和祭／一九九七年度のクリスマス行事

文学講座「文学にみる愛の諸相」の講師を担当／新刊紹介

体育館・校舎棟献堂式に至るまで／ドイツでの思い出





この写真は、昨年11月29日に開催された体育館・講義棟献堂式の、式典(上)、及び祝賀会(下)の様子です。学内でこれだけ大きな行事を行ったのは、開学式以来はじめてのことである上に、照明、及び音響を始めとする施設の使用も未経験だったので、手探り状態での企画でした。ご臨席を賜りました皆様には、心から御礼申し上げます。

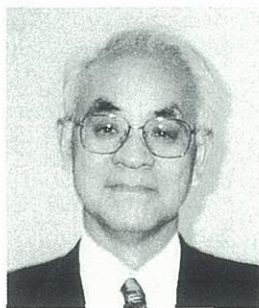


## もくじ

献堂式における式辞 北垣宗治……………	1	学生リトリート……………	8
〈第7回〉敬和祭……………	4	就職相談室移転……………	8
敬和学園大学、新潟市坂井輪地区公民館主催 文学講座「文学にみる愛の諸相」の 講師を担当……………	5	1997年度のクリスマス行事……………	9
北垣学長の名誉博士号授与に寄せて 山田耕太……………	6	学長室だより……………	10
〈新刊紹介〉延原時行「至誠心の神学— 東西融合文明論の試み」……………	7	ドイツでの思い出……………	10
教員採用状況……………	8	体育館・校舎棟献堂式に至るまで……………	12
		同窓会の学園祭参加をふりかえり 米山光紀……………	13
		安藤弘先生ご逝去……………	13

## 献堂式に

## おける式辞



学長 北垣 宗治

ような力強い言葉があります。

門よ、汝らのこうべをあげよ、

とこしえの戸よ、あがれ、

栄光の王、いりたまわん。

栄光の王は誰なるか、

力をもちたもう猛き主なり、

戦いに猛き主なり。

門よ、汝らのこうべをあげよ、

とこしえの戸よ、あがれ、

栄光の王いりたまわん。

この栄光の王は誰なるか、

万軍の主、これぞ栄光の王なる。

お集まりの皆様。

今日はようこそおいで下さいました。心から御礼申し上げます。

今日は敬和学園大学にとって、本当に嬉しい日です。それはこのキャンパスに新しい、自前の体育館と新しい校舎一棟が与えられ、新発田館が見事に増築されたからです。

普通ですと、新しい大学が設置されれば、体育館は当然最初から備えられています。しかし私たちは残念ながらその財力がなく、新発田市の暖かいご配慮により、第一中学校の不要となった体育館を頂き、六年半にわたり、そこでスポーツ実習や課外スポーツに励んできました。学生たちをいっいちその体育館まで大学のバスで輸送したので

あります。これでその不便さが解消しました。この体育館の二階には健康増進のためのトレーニング・ジムも備えました。

普通ですと、たかが体育館、そして校舎が一棟できたくらいで、こうしてお客様においで頂くことほしきではありません。しかし私たちが敢えてこのようにしたのは、敬和学園大学の歴史にとって、これは画期的なことであると考えるからであります。

僅か七年の歴史にすぎませんが、今日はいわゆる竣工式であります。出来上がった建物を献堂式と呼びます。出来上がった建物を献堂式と呼びます。では、誰に献げるのでしょうか。私たちはそれを天地万物の創造者であり、歴史の支配者である神に献げるのであります。旧約聖書の詩編24篇に次の

この詩編の言葉の通りに、栄光の王にお入りいただくために、私たちはこの献堂式を挙行しました。このようにして、今日は七年前の歴史を支え、導き給うた神に感謝し、この大なる宝を私たちに与えて下さったことを、全学あげて喜ぶ日なのであります。私たちはこの体育館を Theobald Adrian Pain 記念体育館と命名しました。通称パーム館ですが、パームは新潟地域の最初の宣教師です。新潟に来た宣教師としては、パームより古い人としてブラウン博士があるのですが、ブラウン先生はお雇い英語教師として一年たらず新潟に住みました。この地域における最初のプロテスタント宣教師として、Edinburgh Medical Mission から派遣されてきて宣教の業に従事したのがパームでありました。彼は新潟地域で明治八年から十六年まで、八年間働きました。彼は当時世界の医学で抜群に優れていたエディンバラ大学医学部の出身で、新潟にいち早く最先端の医学をもたらしました。リス



# CLOSE UP

ター消毒法という方法を導入することにより、きわめて優秀な外科手術を行うことができました。彼はこの地域のツツガムシ病とクル病について論文を書き、母校の専門誌にのせました。彼はミス・ショウという第一級の看護婦を招いて、この地域にナイチンゲール式の近代看護法を導入しました。彼が新潟で作ったパーム病院は、新潟における初めての私立の病院として栄えました。かたわら彼は新潟を中心に宣教に励み、その足跡は村上、中条、新発田、水原、長岡等に及んでいます。中条教会にはパーム宣教師とその夫人とお嬢さんのまことに珍しい写真があり、門外不出のもですが、このたび、パーム館の竣工を記念して、高橋稔牧師と役員会のご好意により、そのすぐれた複製をご贈頂きました。つつしんで感謝申し上げます。これをパーム館の中にかかげ、パーム宣教師の偉大な業績を記念したいと存じます。

私たちは新しい教室棟を Horatio Bannister Newell 館と呼ぶことにしました。略してニューエル館ですが、ニューエルはパームのあとをついで新潟地区の宣教にあたったアメリカン・ボードの宣教師でした。彼は新島襄や内村鑑三の学んだアーモスト大学で学び、日本に派遣され、明治二十年から三十七年まで十七年間働きました。十七年間というのは明治期新潟の宣教師としては最も長い年数です。最初私立長岡学校で教えるかたわら、初期の長岡教会を助けました。その時のエピソードですが、彼はいつもポケットにへビをしのばせておりまして、子供らを見ると近寄って「いってそろ」とへビを見せました。子供らは驚いてあど

ずさりします。しかし好奇心をそそられた子供たちは、この外人さんについていきます。このようにして上手に子供を集めて、日曜学校を開いたそうです。へビを使って伝道した宣教師を私は他に知りません。この当時日曜学校でニューエルに習った一人が山本五十六です。阿川弘之の『山本五十六』という本には、ニューエルが長岡から新潟に移ることになったので、幼い五十六が信濃川の船着場まで見送りに行ったという話がでてきます。ニューエルは明治期のキリスト教学校であった新潟の北越学館でも廃校になる直前の半年間教えましたし、新潟教会の第六代目の牧師を明治三十四年から二年間つとめています。本学ではすでにニューエルを記念してケリー・ニューエル奨学金を設け、毎年二人のクリスマスチャン



宣教師パーム一家の肖像  
神学博士 橋本 宣  
宣教師パーム一家の肖像  
宣教師パーム一家の肖像

学生に奨学金を出しています。

最後に、今回の増築によりまして、敬和学園大学図書館のスペースが一挙に二倍にふえました。これまた私たちにとって大きな喜びです。就職相談室、ボランティア相談室、留学生相談室それぞれが新しい部屋にはいり、気分を一新して活動を始めます。なにとぞこうした喜びを皆様が私たちとシェアして下さることを心から願ひ、皆様から日頃頂いておりますご親切、ご好意、ご芳情に対して心からの感謝を申し上げて、式辞を終らせて頂きます。



# CLOSE UP



11月29日 大学体育館・講義棟献堂式 後宮理事長による祝祷

## 定礎式

献堂式に先立ち、十月二十二日に定礎式を行いました。これは建物が出来上がったとき定礎石を埋め込む行事で、既存の校舎では、聖籠館玄関に向かって右手に礎石があります。礎石の奥には、設計図や新聞等を入れるのが一般的ですが、キリスト教主義の本学では聖書を埋め込みました。このたび新築なった体育館では玄関正面に礎石をはめました。中に聖籠館に埋めた聖書よりも装丁小型の聖書が入っております。定礎式の次第のマニユアルを見ますと、神社の儀式と思われるような言葉が多く出て

## 体育館新築及び講義棟増築等工事概要

### 1. 建物概要

建物名	構造	延べ床面積	階数
体育館	鉄骨鉄筋コンクリート造り	2,627.91㎡	2階建て
	アリーナ	1,284.9㎡	
	ステージ	67.3㎡	
	廊下・ホール	195.6㎡	
	その他(ロッカー室、シャワー室、トイレ、教員控室、倉庫等)	271.9㎡	
	トレーニングルーム	78.8㎡	
講義棟	鉄筋コンクリート造り	1,777.81㎡	3階建て
	図書館	454.8㎡	
	就職相談室	72.0㎡	
	国際交流室	37.8㎡	
	ボランティア相談室	37.8㎡	
	中教室(3室)・演習室(5室)	617.5㎡	
その他(廊下、トイレ等)			
渡り廊下	面積	72.85㎡	

### 2. 総工費

945,000,000円

### 3. 請負者

設計・監理	(株)一粒社ヴォーリス建築事務所
建築本体工事	新発田建設(株)、(株)岩村組、(株)石井組、(株)伊藤組 特定共同企業体
機械設備工事	新富工業(株)
電気設備工事	(株)ユアテック

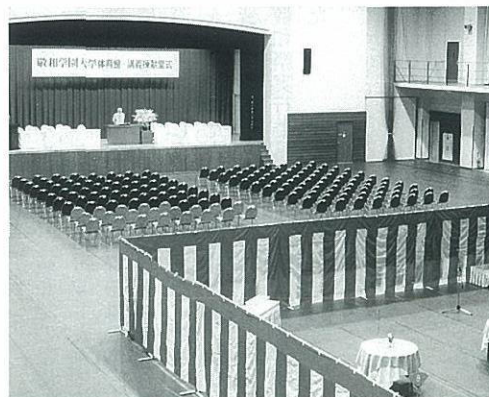
### 4. 教具、校具等

教室机・椅子等	31,900,000円
トレーニングジム等	23,119,000円
その他	25,562,000円

### 5. 寄贈物件

(1) ステージ上吊物機構	敬和学園大学後援会殿 オレンジ会殿 株式会社一粒社ヴォーリス建築事務所殿 新発田建設株式会社殿 株式会社岩村組殿 株式会社石井組殿 株式会社伊藤組殿 新富工業株式会社殿 株式会社ユアテック殿
(2) ステージ上照明機器	
(3) ステージ上演壇・花台	

きます。そこで、マニユアルに聖書や賛美歌を加え、若干アレンジして当日の式次第を作成しました。参加者は理事長と本学の大学運営委員の先生と、一部の事務職員で、他は建築に関わって下さった業者の皆さんです。その業者の皆さんは、異口同音にこのような定礎式は初めての体験だったとおっしゃっていました。礎石の奥に埋め込んだ聖書は、校舎や体育館が古くなって建て替えることになる数十年後に掘り出されることになりませんが、その聖書を見ることが出来るのは誰なのか。興味深いことです。



11月29日 大学体育館・講義棟献堂式 会場設



## 〈第七回〉

# 敬和祭

学生の最大の自主活動である敬和祭が、去る十一月八日(土)、九日(日)の両日に渡って敬和祭実行委員会の掲げた「大集合」というテーマのもとに開催されました。例年より二週間ほど遅い開催となりました。例年よりも二日間ともこの季節には珍しい好天に恵まれ、地域の方々、学生、卒業生、教職員の皆様など沢山の方々に足を運んでいただき実行委員の想いのこもったテーマ通り、大盛況の大学祭となりました。近年になく盛況となった理由を考えてみると、天候に恵まれたこと、体育館が新築されたこと、定期的に他大学の大学祭が終わっていたこと、連休後であったことなどが挙げられますが、実行委員会の企画や運営もまた良かったと思います。今年は例年より早く六月初旬には実行委員会が組織され活動を開始しました。これとともに、開催時期がいつもより遅くなったこともあって準備期間に余裕ができ、一番大切な企画や内容の検討に時間を多くとることができたようです。その結果、一年生のアドバイザークラスに必ず一つ企画を出して参加してもらったり、音楽隊のパレードや、NAMAR A、BLAST BACK BONEのライブを企画したりと、新しいアイデアが実行されました。

十一月八日、その音楽隊のパレードで敬

和祭は開幕しました。音楽隊の演奏はその後広場でも行なわれ、お祭りらしい華やかなムードを盛り上げました。新築の体育館では半面で地域の小学生が中心のミニ四駆大会が行なわれ、大勢の参加者が予選、準決勝、決勝と午後まで大熱戦を繰り広げました。ここには、小学生に同伴した保護者の方々も沢山おられ、我が子に応援を送ったり、少林寺拳法部やチアリーダー部の演技を見たり、トレーニングマシンで運動したりと、いろいろ楽しんでおられるようでした。もう半面ではバスケットボールの3on3の大会が行なわれ、これにも多くのチー

▲第7回敬和祭屋台

ムが出場して夕方まで激しい試合を展開しました。九日は静かな幕開きでしたが昼近くなるにつれて盛況となり、卒業生も大勢顔を見せて学内は和やかな雰囲気になりました。教室では二日間に渡って大海ゼミ、浅野ゼミの研究成果の展示や安藤ゼミのパソコン講習が行なわれ、大学祭の一方の重要な柱となる本学での学問分野での発表を担っていただきました。午後からNAMAR A、BLAST BACK BONEのライブがオレシホールで行なわれ、学生、高校生を中心に立ち見が窮屈なほどの盛況でした。同じ時間帯にアネックスで同窓会企画のイベントが行なわれました。ここには教職員の方々や卒業生諸氏が多数参加して下さり、初めての試みとしては大成功でした。是非、卒業生が母校を訪れる年中行事として今後も継続していただきたいと願っています。このほか、いくつかのサークル有志のイベント参加があり、敬和祭を盛り上げてくれました。来年は運動部を含め、さらに多くのサークルが日頃の活動の成果を見せてくれることを期待します。

最後になりましたが、敬和祭のために多大のご援助、ご協力を賜りました地域の企業各社、オレンジ会の皆様をはじめ、会場に足を運んでくださいました地域の方々に深く感謝申し上げます。また、学生の活動を支えてくださいました後援会、教職員の皆様に心からお礼申し上げます。そして、敬和祭実行委員諸君、本当にご苦勞様でした。

学生部長 久島公夫



敬和学園大学、新潟市坂井輪地区公民館主催

# 文学講座『文学にみる 愛の諸相』の講師を担当

本学の公開講座は例年新発田市、聖籠町で開催されておりますが、この文学講座はそれとは別に、坂井輪地区公民館から依頼された講座です。

公民館では文学愛好家グループ「文学の小径の会」が中心となり、ここ数年間近代日本文学についての文学講座を企画されてきました。それが一段落したところで、今度は外国文学に関する講座に関心を持たれたことから、これまでの文学講座でもしばしば講師を勤められ、本学で文学の講義を担当されている文芸評論家若月忠信先生の仲介で、この企画は実現することになりました。

総合テーマを『文学にみる愛の諸相』とし、青葉の眩しい五月下旬から初夏の七月中旬まで計九回、ご覧のテーマと講師陣で臨みました。若月先生もそうですが、新潟大学の先田進先生も本学で文学史の講義を担当していただいていますので、まさに敬和学園大学の出前講座のようになりました。本学が新潟市でこれほど大規模な講座を引き受けるのは初めてのことです。本学にとっては敬和について身近に知っていただける

得難い機会となりました。坂井輪地区公民館は新潟市の西部に位置し、新潟大学や国際情報大学の勢力範囲にありますから、その「縄張り」に出向くのだという気持ちも講師陣にはありません。

講座は平日の昼間でしたが、定員五十人

を優に超える盛況ぶりでした。かつての文学少女・少年が中心で、鋭い意見や質問は聴衆のレベルの高さを窺わせてくれました。熱心な聴衆を得ることほど講師にとって嬉しいことはありません。しかし、そればかりでなく講演後「孫が文学好きで敬和の英文科にお世話になっています。今日のお話について今晚孫と話し合ってみたい。」「東中通教会の者ですが、いつも敬和学園大学を応援しています。先生方の講義を新潟で聴けるなんて本当に嬉しいです。」と声をかけていただきました。こうした形で、本学の熱心な後援者やファンの方々に思いがけず出会えるのも、キャンパスを出て講座を担当する本場に大きな喜びの一つです。

桑原 ヒサ子

## プログラム

月日	内 容	講 師
5/21 (水)	グレアム・グリーン 『情事の終わり』を読む	敬和学園大学学長 北 垣 宗 治
6/28 (水)	リヒャルト・ワーグナー 『トリスタンとイゾルデ』にみる 愛(エロス)と死(タナトス)	敬和学園大学助教授 桑 原 ヒサ子
6/4 (水)	これからの愛の行方を読み解く 渡辺淳一と林真理子など	文芸評論家 若 月 忠 信
6/11 (水)	會津八一の青春と歌	敬和学園大学教授 北 嶋 藤 郷
6/18 (水)	シェークスピア『夏の夜の夢』 における愛の神話の受容と変容	敬和学園大学講師 金 山 愛 子
6/25 (水)	ウィリアム・ウィッチャリーの 『田舎の女房』	敬和学園大学教授 伊 藤 豊 治
7/4 (金)	ポルトガルの尼僧の愛 堀辰雄と三島由紀夫への影響	新潟大学人文学部教授 先 田 進
7/9 (水)	愛とお金—米文学作品 『グレート・ギャツビー』・ 『アメリカの悲劇』から	敬和学園大学教授 松 崎 洋 子
7/16 (水)	宮沢賢治とキリスト教	敬和学園大学教授 山 田 耕 太



# 北垣学長の名誉博士号

## 授与に寄せて

山田 耕太

この度、大学の北垣宗治学長がアメリカのアイオワ州にあるノースウェスタン大学から、名誉博士号 (Doctor of Humane Letters) を授与されたことを、大学関係者一同とともに、心からお祝いの言葉を申し上げます。ご承知のように、ノースウェスタン大学は、本学と同じ教育理念に立つ、キリスト教主義のリベラル・アーツ・カレッジとして広く知られており、設立当初から本学はノースウェスタン大学と姉妹校提携を結び、英語の夏期短期留学先の一つとして、学生を派遣してまいりました。さらに、北垣学長のお力添えによって発足したオレンジ会による交流を通じ、一九九五年には、本学とノースウェスタン大学との教育交流に根ざして、新発田市とオレンジ・シティとの間に姉妹都市関係が結ばれるに到りました。

以上のような経緯で、一九九六年三月の本学の第二回卒業式において、本学は姉妹校提携と姉妹都市締結に尽力されたヴァンダウエルフ教授に名誉博士号を贈りました (本学とノースウェスタン大学のキリスト教主義リベラル・アーツ・カレッジの教育理念は、敬和カレッジ・ブックレット第二

号、北垣宗治著『若者は幻を見る』一九九七年三月、敬和学園大学発行、参照。その中にヴァンダウエルフ教授の名誉博士号授与記念メッセージ「ヴィジョンと天職」も収められています。そして、一九九七年八月末のノースウェスタン大学の入学式において、敬和学園大学の初代学長としてキリスト教主義リベラル・アーツ教育を押し進めることに邁進し、さらに姉妹都市締結を通じて日米の平和友好関係を樹立された榮譽を称えて、ノースウェスタン大学から北垣学長に名誉博士号が授与された次第です。

これは、四十年以上に亘る同志社大学と敬和学園大学での英文学の先生としての経歴、同志社大学から文学博士号を授与された『十七世紀イングランドにおける翻訳と翻訳論』(英文、一九八一年、山口書店)

に代表される英文学の研究、J・D・デイヴィスとA・S・ハーディによる二つの新島襄の伝記の翻訳と新島襄の英文の手紙、エッセイ、日記の編纂(小学館、一九七七年。『新島襄全集』第六、七、一〇巻、同朋舎、一九八五、九六、八五年)や『新島襄の世界』(見洋書房、一九九〇年)『新

島襄とアーモスト大学』(山口書店、一九九三年、日本英学史学会・豊田実賞受賞)に結実した新島襄研究の上に立って、キリスト教主義の大学創設という「崇高で高邁な事業」を始められた北垣学長の榮譽を称えるのに、大変相応しいことであると思います。折しも、念願の体育館新設ならびに校舎・図書館増設が完成して、教育空間が一挙に二倍近くに増え、キャンパスが一新された年に、このような名誉に浴すること

は、大学関係者一同にとっても二重の喜びです。北垣学長の各方面における益々の活躍とご健康をお祈り申し上げます。  
"Among the objects of human enterprise, — I may say it surely without extravagance, Gentlemen, — none higher or nobler can be named than that which is contemplated in the erection of a University."

(John Henry Newman, *The Idea of a University*)



名誉学位号のフード



延原時行

『至誠心の神学』

東西融合

文明論の試み』

(行路社、一九九七) 二二三頁

本書はきわめて明瞭な問題意識に貫かれた著作である。著者は本学の宗教部長で哲学や比較宗教思想を担当する延原時行教授である。延原教授が提出する気宇壮大な問題は「政治・経済よりも高次の日本文明の中核にあるべき精神性は何か」である。この「文明の精神性の基軸の問題」に対して、「仏教的キリスト教的神学の視点から」著者は大胆に、至誠心の伝統こそがそれであることを雄弁に論証していく。

日本人の精神的伝統を論じた本はこれまでにたくさんあらわれている。ルース・ベネディクトの『菊と刀』はあまりにも有名である。最近のヴァン・ウオルフレンの『日本——権力構造の謎』のように論議をまきおこした本も出た。たくさんの学者、知識人、批評家が日本人のアイデンティティの問題に取り組む場合、しばしば出てくる議論は、日本人は宗教を持たない、日本人には宗教的バックボーンというものがない、

至誠心の神学

東西融合文明論の試み



延原時行

至誠心の原理とは何か?

日本文化の基軸は、  
それは仏教の思想とキリスト教の思想とが  
融合して成り立っている。その  
融合の基軸は何か? 延原時行の試み

日本では何がファンダメンタルなのがいまいである、日本では超越的普遍的規範原理がない、といった線である。これに対して延原教授は声を大にしてノーと叫ぶ。日本では至誠心の伝統がすでに十三世紀の親鸞の時代から存在する。それは著者にいわすと「維新の時代に江戸城無血開渡しで勝海舟と西郷隆盛が見事に發揮してくれたのではない。敗戦時の昭和天皇の『人間宣言』も同様である」(viページ)。

ではその至誠心の伝統とは何であろうか。それに先立って、「至誠心」そのものが定義されなくてはならない。聖書ではそれは「汝らの天の父が全き(至誠)が如く、汝らも全(至誠)かれ」(マタイ5・48)というイエスの呼び掛けに基づく。それは「神は、愛のうちにあって完全性を追い求める点で彼のようにあれとわれわれを切に促し給うところの方として」(一六四頁)理解できるのである。

著者が大乘仏教の哲学から至誠心を規定することは、論理的必然であるが、その部分は難解にひびく。親鸞の「至とは真なり。誠とは実なり。一切衆生身口意業の所修の解行、必ず真実心の中に作したまへるをもちひん声を明かさんと欲す。外に賢善精進の相を現する事を得ざれ。内に虚仮を懐けばなり」という重要なテキストは現代の読者には簡単に理解できないであろう。人は力をつくして清浄真実心を確保しなければならぬが、その場合の真実心は、実は仏の方からやってくるものであるらしい。すなわち「仏御自らの真実心としての至誠心」(二六頁)である。東洋の文化の本質は空性への悟りを基軸とした「覚の文化」(Culture of Awakening)なのである。

絶対主義のヨロイを脱ぎ捨てるとき、キリスト教と仏教は創造的な対話を行うことができる。こうして著者が重要視する「東西融合宣教学」の方向が示された。著者はその中心課題は「靈性の開拓」であるとす。日本のシステムの深層にあるものは、実は驚くべきダイナミックスをもつ何かであって、それを著者は、いざとなればすべてをゼロからやりなおすことのできる力、「無者からの出発」の能力と考えている。そしてその背景には、非達成が達成であり、達成が非達成であるというパラドックスの認識がある。私はこのインパクトの強い本書を著者の哲学的自叙伝として読んだことを付け加えておきたい。

(北垣宗治)



# 教員採用状況

本学で教職課程を履修した学生は、卒業時に高等学校と中学校の英語教諭一種免許をそれぞれ取得する。本学のように教員養成を目的とした学部でなくても教員免許が取得できるのは、本学の質の高い英語教育に負うところが大きい。しかし、学生たちにとっては、教員になることが唯一の進路ではないことから、教員志望動機は揺れ動く。そんな中で、難関の教員採用選考に果敢に挑戦し、また、卒業後も教員を目指す者も少なくない。

現時点までの教員採用数は、一期生では東京の私立中学に一名、新潟県の公立中学に二名採用されている。二期生では、新潟県の公立中学に一名いる。三期生でも新潟県の公立中学で二名が採用されている。来年度卒業予定の四期生についても、新潟県の公立高校に一名、北海道の公立中学に一名の採用内定が得られている。

公立学校の教員採用は、僻地指定地域が半数にのぼる新潟県でも六倍の競争率を下らない難関である。この試験を克服する力と、それを支える希望と勇気が学生たちに与えられることを教職員一同願っている。

教職課程委員会

# 学生

## リトリート

本年度のリトリートは、十一月十四、十五両日、昨年度と同じ胎内下越スポーツセンターで行われた。参加者は教員が、北垣学長、柴沼教授、延原教授、山田教授、永野助教授、矢嶋講師の六名、学生は延原ゼミを中心とする九名であった。今回のリトリートは、「地球環境とNGO」を統一テーマとし、延原教授、山田教授、永野助教授からは、それぞれ聖書に見られる環境に関する御言葉の解き明かしと奨励をいただいた。九日の夜、矢嶋講師は「地球環境と倫理」と題する提題を行い、深夜まで活発な議論が行われた。十日には柴沼教授からは「若き日に」と題し、エリクソンの発達心理学説を題材とする講話をいただいた。締めくくりに「学長大いに語る」と題し、北垣学長がご自身の興味深い体験談を交えながら、リベラルアーツ教育の理想を語られた。

学生達は、九日には夜を徹しての語り合いの時間を持ったもようである。短くも密度の濃い交わりを持ち得た恵みを感謝したい。おいしい食事と美しい紅葉も忘れがたい。来年度は一層多くの学生の参加が期待される。

矢嶋直規

# 就職相談室

## 移転!!

開学以来聖籠館の玄関右手にあった就職相談室が、図書館となりの増築した部分に移転した。とは言っても、就職相談室として開設したのは、一九九三年五月で、当初専任の事務職員は一人だった。同時に就職委員会を組織し、教員の指示に従って事務処理をしていたわけである。当時から近い将来手狭になるとはいわれていたが、既存の建物にはそのスペースがなかった。その後、学生の就職活動が本格的となってきた事により、職員を増やし、現在三名の事務職員で業務を行っている。また、企業からの求人等の書類も、年々多くなっており、学生の活動期には、座る場所さえ不足する状態だった。

昨年体育館の新築とあわせ、図書館の増築と、新発田館に接続する三階建ての講義棟を増築し、十月末に完成したが、その際、図書館廊下に面して、オレンジ・ホール側にはみ出す形で就職相談室を作った。面積は七十二㎡で、応接室もある。完成直後は行事が立て込んでおり、十二月十一・十二日の二日間移転を完了した。

今年度は就職協定の廃止による混乱と、不況の先行き不透明さが重なり、全国的に学生の就職は厳しい風が吹いたが、来年度に向け、新しい相談室を十分に活用して、悔いのない就職活動ができることを期待している。



# 一九九七年度のクリスマス行事

十二月十九日午前十一時三十分から特別養護老人ホーム「二の丸」でのキャロリングから始まった。約三十名の学生と教員が参加した。

その後は燭火礼拝。毎年金曜日の四限に行っている。参加者はまず両学科長によりローソクを点火してもらってから入場する。去年は学生・教職員あわせて百名ほどの参加となった。始めに聖歌隊による讚美歌。

本学にはまだ正式な聖歌隊はなく、この日のために合唱部が中心になり、学生有志が昼休み等を利用して一生懸命練習してきた。毎年メンバーを集めることに苦心している。指揮と指導は科目等履修生の藤井尚治さん（新潟教員）。このメンバーが順調に育ってくれることを願っている。詳しくは、プログラムをご覧ください。

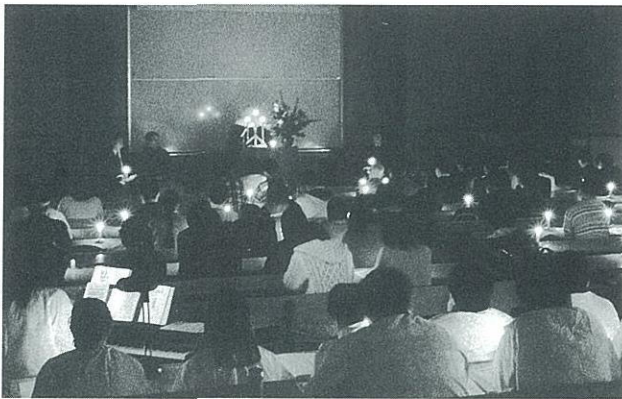
燭火礼拝終了後は再度キャロリングに出発した。どこで歌わせていただくか、場所の選択が難しい。「キリスト教と教育委員会」と教務課学生係が苦勞して三個所を設定した。また、新発田はこの頃になると吹雪く日もあるのだが、昨年ほど温かった年は開学以来始めてである。

午後六時三十分からはオレンジホール・アネックスでクリスマス・パーティーが開かれた。簡単な食事をとりながら、楽しい催しが学生の手で繰り広げられた。

翌二十日は大学・高等学校合同クリスマス研修会が開催された。これは大学が開学した翌年から毎年恒例になっている行事で

ある。会場はそれぞれ交互に行ってきたが、高等学校のチャペルの完成が今年の二月でできたことと、昨年十月末に大学に体育館ができたことで、見学を兼ねて二年続けて大学が会場を提供した。参加者は、大学教員十七名、大学職員全員の二十六名をあわせて約百十名ほどになった。

まず午前十時からS31教室で礼拝を行い、高等学校の角田三郎寮長の「救いの訪れ」と題した説教があり、聖書の中でも有名なイエスとザカイとの会話から、救いについての教えをお聞きした。



12月19日 大学クリスマス・キャンドルサービス

その後は引き続き合同研修会として、今年度は大学の菊地教務課長から「大学開学までのよもやま話」と題して講演があった。講演では、申請事務、特に「大学設置申請」を中心に、大学設立準備室の最初の業務だった「学生確保の見通し」の資料作成のためアンケート調査での苦勞話、設立準備室が五箇所も転々としたこと、一次申請取り下げ騒動で、文部省や大学設置審議会との生々しいやり取り等、ユーモアを交えながら、とても有意義な講演であった。昨年の

この研修会では、藤倉事務局長から、大学設立までの、新発田市としての苦勞話を当時の助役の立場からお話いただいたが、改めてこの大学が、多くの方の語り尽くせない苦勞によって創られた事を実感することができた。この講演内容は、いずれ大学の記念誌を発行する際に、記載したい。

その後は場所をオレンジホール・アネックスに移してパーティーが開催された。昨年同様、会場設営始め、すべて新発田ベルナールに準備いただいた。同一法人の教職員、年に一回の交流の場なので立食とした。一時間弱の短い時間であったが、楽しい交流ができたのではないか。パーティーの途中から、三々五々新しい体育館の見学が始まり、中にはトレーニンングルームの器械に取りついて、食後の汗を流していた人もあった。

キリスト教主義を教育の基本においている学校法人の教職員として、その最大の行事であるクリスマスと、同一法人の教職員が年に一回顔を合わす合同研修会である事を考えるともっと多くの参加となるよう、期待したい。



# 学長室だより

一九九七年も暮れようとしています。敬和学園大学は待望の（「悲願の」というべきかもしれません）パーム体育館とニューエル館を与えられ、教室、演習室が充実し、図書館のスペースが倍増し、一九九八年度にむかって「準備よし」の状況となりました。私たちがニューエル館を初めて使用したのは去る十一月二十一日のことで、この日新発田地域高等教育推進協議会（新発田の近市長がその会長、私が副会長をつとめています）の肝煎りで、新発田市内の小学校、中学校、高等学校の先生たち約二十名が市内の新潟職業能力開発短期大学校と敬和学園大学を見学し、そのあとニューエル館二十一番教室（N21）で一時間にわたる懇談会を開きました。この教室の椅子はアームを引っ張って調節すると書き物ができるようになっていきます。参加者からは、同じ市内にありながら敬和学園大学はまだまだ知られていないので、このような見学会をこれからも時々開催してほしい、という要望ができました。

敬和のこともっと多くの高校生に知ってもらうために、ここ三年間夏休みの初めにオープン・キャンパスを開いてきました。今年は八月二日の午後七十七名の参加者をえて開催。学長の挨拶、山田耕太教務部長による大学の紹介、西村秀雄入試委員による入試の説明のあと、参加者はジョイ・ウィリアムズ先生の模擬授業を体験しました。その間希望者には個別に入試委員が相談に応じていきました。敬和にとって大切なお客様をHUNK FILM、少林寺拳法部、サッカー部、軟式野球部、チアリーダー部の学生たちが学内の各部分、諸施設に案内してまわりましたが、これは高校生諸君に敬和への親しみを持ってもらうためにはきわめてよい方法でした。参加者にアンケートで答えてもらったところによると、大学の雰囲気は非常によい、また模擬体験授業も楽しくて、よかったとのこと。「学生がはきはきしていて印象がよかった。校舎がきれいで快適だった」「先生方がとても感じの良い人ばかりだった」「やっぱり私に合っていて改めて楽しくて有意義な四年間を過ごせそうに思った」などの嬉しいコメントを残してくれました。夏休みもいけれど、実際の学期中をも体験したいという希望もありますので、来年のオープン・キャンパスは少なくとも二回とし、一回は六月あたりの土曜日に開いてみたいと考えます。

この夏休みには十三日間にわたってアメリカを訪れる機会があり、愉快でした。ま

## 夏季ドイツ交換学生

### ドイツでの

### 思い出

一九九七年七月二十九日

長いようで短かったこの三週間という時間は、今までにはなかったたくさんの貴重な経験、そして数えきれないほどの大切な思い出を私に与えてくれました。ドイツに着くまでは不安もあり心配でしたが、ドイツでの生活は本当に毎日が楽しく、有意義に過ごすことができました。最初のステイ先だったアーヘンでは、ドイツ・ベルギー・オランダの国境がある「三つの国境」地点という数秒で三力国まわれる場所へ行き、日本では決してできない体験ができました。幸運だったことは、フランスのパリにも連れて行ってもらったことです。オランダへ買い物をした行ったり、その他にケルンやボンなど、いろいろな所へ連れて行ってもらいました。

二つ目のステイ先だったドルトムントでも、お城や教会、ミュージカル、動物園など、多くの有名な所へ連れて行ってもらったけど、私はおばあちゃんやおじいちゃん、おばさん、いとこ、友達などたくさんの人達に会えたことがとても嬉しかったです。困ったこと



ず敬和の姉妹校であるノースウェスタン・カレッジでは新学期の始業式の記念講演をする機会を与えられました(この講演に先立って名誉学位をいただきました)。今回は空港のあるスー・フォールズとオレンジ市との往復、出迎えと見送りの両方を、オレンジ市長のヴァンダストウープさんが自分の車で運転でして下さるといふ、破格の名誉を与えられました。なにしろヴァンダストウープ市長は市長になる前にはノースウェスタン・カレッジの募金担当副学長だった人ですから。運転しながら大学の募金の意義・方法・苦勞話に花が咲きました。そして、あと二年で市長をやめたら、敬和に行つて、半年間募金の指導をしてあげようと言われました。実現するならば、これは実に有難いことです。

次にカリフォルニア州立大学サンバナディーノ校を訪問、延原先生のご案内をえて新しい学長のカーニヒ博士やポーター部長、ジャクソン博士、チェイフィー女史、そしてACLPの運営にあたったランディー・カー氏などに会いました。今年のプログラムは五週間にわたり福王守先生が学生の相手をして下さり、無事故で有意義であったことを嬉しく思いました。はじめてACLPのサヨナラ・パーティーに出て、英語で挨拶する機会をえました。

ボストンで数日を過ごしてから帰国する時、私の乗ったノースウェスト機はナイヤガラ滝の真上をとびました。機長は滝がよく見えるようにと、わざわざ翼を傾けるというサービスしてくれました。夏の終わりの思い出のひとつです。(北垣宗治)

#### 寄付者ご芳名

私の訴えに答えて前号以降にご寄付いただいた卒業生は次の二十名です。この中で二名は三年連続で、三名は二年連続でご寄付頂いていることを特記致します。今後は一期生、二期生、三期生の呼び方でなく、アメリカ式に一九九五組、一九九六組、一九九七組のように、卒業年で示すことにします。(北垣宗治)

一九九五組◆川本正仁 小山美弥子  
新田和子 金山撰子

一九九六組◆渡辺大和 小山奈々子  
上田敬久 山川 淳  
斎藤 力

一九九七組◆丸山隆也 鈴木貴之  
金子美由紀 二宮達也  
呉 賢欄 滝沢朋子  
二宮慶子 丸山仁史  
安藤典子 塚原慶一  
若林桃子



と言えば食事、特に二つ目のステイ先では、ほとんど毎日お昼抜きの生活だったので、それが一番辛かったです。ドイツに行つての感想として一番感じたことは、自然が多いということ。街の中でも緑がたくさんあって、公園は広く、きれいに咲いた花々、たくさんのお木々に囲まれ、小川にはカモやアヒルが泳いでいたり、本当に気持ちの良い場所、自然をととても大切にしているなと感じました。

日独学生の交流といった点においては、二泊三日の小旅行がとて有効的だったように思えます。城見学のためのハイキングでは、ハイキングというよりも登山と言つた方がいくらいの行事で、登山慣れしていない私達日本人にとっては大変きついな私達日本人にもかかわらず、難なくこなすドイツ人によって、民族と習慣の違いについて考えさせられました。

この三週間を振り返って反省しなければいけないことは、英語の勉強の足りなさです。これからもっと英語を頑張つて、必ずまたドイツのホストの家を訪れ、今話しきれなかったたくさんのお話をしたいです。このプログラムに参加できて、本当に良かったです。このような貴重な体験をする機会を与えて下さったロータリークラブの皆様にご心から感謝致します。

英語英米文学科一年 栗林摩衣  
(豊栄ロータリークラブ週報)

平成九年九月三十日例会 (転載)



## 体育館・校舎棟

### 献堂式に至るまで

去る十一月二十九日に献堂式を執り行いました。体育館の話については、大学設立申請まで溯ります。

一九八九年七月に文部省に対して大学設立のための一次申請を行いました。その時点では大学設置基準上、体育館は絶対必要条件ではありませんでした。しかし、書類提出締め切りの一ヶ月前の折衝で、新発田という環境を考慮すると、冬場の体育は体育館なしではあまりにも不十分であるとの結論に達しました。しかし、全ての設置経費の分配が完了した段階であったこともあり、建設費を割ける余裕がなかったことから、新発田市のご厚意により、旧第一中学校の体育館の、建物を無償譲渡、土地は無償貸与を受けることで、申請書を受理していただきました。余談ですが、この大学から体育館まで車で二十分ほどかかることから、この送迎は敬和学園高等学校のスクールバスをお借りすることまで計画しましたが、天候の具合でその都度高等学校に連絡をしなければならず、大変煩雑になることから、高等学校が十九年間ほど使用したスクールバスを償却し、新しいバスを購入する機会に、その古いバスを貰い受け、二年間ほど使用したこともあります。そのため職員の何人かは急遽大型免許を取りにも行きました。そんな苦勞もありましたが、開学以来六年半の間、体育館を使用させていただいた新発田市に対しては、心から

感謝の気持ちでいっぱいです。またこの間、かなり不自由な変則授業を余儀なくされたにもかかわらず、我慢していただいた体育実技（現在ではスポーツ実習）担当の久島教授に対しても、敬意を表したいと思えます。

当初献堂式は一九八八年三月の予定でしたが、それは、体育館の完成は十月末でしたが、校舎の増築は二月を予定していたためです。しかし、天候が良かったこと、予算が非常に厳しかったため、業者も経費を節約するために、急ピッチで工事を行った結果、校舎の増築も十月末までに完了しましたので、天候等を考慮して急遽年内に行うことになったのです。

そこで担当する総務課では、十月中旬から準備に入りました。献堂式の式典および祝賀会は体育館アリーナで行うこととして計画いたしました。最も心配したのは、気温です。体育館にはかなり量のパネルヒーターを設備いたしました。十一月末ともなると館内を十分に暖めるまでには至らないと思っただけです。

思い出すのは、一九九一年四月に行われた開学式です。ご招待総数が六百名を超え、もちろん屋内には全員が入る会場などなかったことから、栄光館前の広場を会場としたのですが、もし雨が降ったらパニックになることがわかっていました。しかしその時北垣学長ははっきりと、「雨が降ったときのことを考えるのは止めましょう」とおっしゃったのです。当日は曇一つない晴天でした。そこで今回も気温が下がることは考えずに、計画に入りました。結局当日は、風が強かったのですが、暖かい一日でした。

（献堂式の四日後には雪が降りました。）体育館を敷き詰めたビニールシートですが、新しく購入すると二百万円もかかることから苦慮していると、藤倉事務局長から、「新発田市のカルチャーセンターにあるからお借りしよう」と言ってくださり、五人ほどのお手伝いを含め、ご協力をいただきました。これに加え、新発田建設（株）からお手伝いをいただきました。祝賀会は新発田ベルナルにお願ひし、会場造りを含めすべて準備いただきました。

さて当日ですが、残念ながら衆議院議員稲葉大和先生は急用のためお出でいただけませんでしたので、祝辞代読をお願いいたしました。その他のご来賓はご本人からご祝辞を頂戴いたしました。ご来場いただいた方々は、竣工式は何度かご経験していらっしゃると思いますが、キリスト教式の献堂式は初めての方が多く、聖書・讚美歌には戸惑っていらっしゃいましたが、おおむね厳肅で、意味深い、すばらしい式典であったとの講評をいただくことができました。引き続き行われました祝賀会では、地元の方が多く、ゆっくり懇談いただいていたと思います。

本学にとっては開学式以来の大きなイベントで不慣れなことから、ご来場いただきました方々には何かとご迷惑をおかけいたしましたこと、この場をお借りして深くお詫び申し上げます。

十八歳人口が減少しており、私学経営もますます厳しい局面を迎えますが、法人役員・教職員が一丸となって、鋭意努力してまいり所存ですので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



# 同窓会の学園祭参加を

## ふりかえり

敬和学園大学同窓会長 米山光紀

平成九年度の事業計画を組む三月以前から、卒業してから大学に興味はあるが、大学と卒業生の架け橋となる同窓会の事業が希薄な感じを抱いていた。平成八年度には同窓会総会を九月十五日に恩師と卒業生対象に開催したが、準備不十分のせいか今一つの出来であった。その失敗を活かし同窓会会員に受入れられやすい事業として何か開催したかった。その様な中で、学園祭に参加し、卒業生が大学に戻るきっかけをとおして学園祭を盛り上げていたら在校生との交流にもなるし、他に得るものがあるのではないかと考え、平成九年度事業のなかに卒業生が「パネラー」となり、社会人になって経験したことについて発表する場を取り入れた。

準備は七月頃から役員を中心幹部の間でどういったテーマにするのか、規模はどれぐらいにするのか等の大枠について話し合い、九月には『大きな決断をした人々』というテーマで経験を話してもらうことになった。ここまで決まるまで役員の方々には、大難儀をおかけしほば毎週土曜日の夜に集まってもらい夜遅くまで打合せを繰り返した。いまふりかえるとどうしてそんなに集まったのだろうと不思議におもいますが、テーマの選定には、特に気をつかい内部で何度

も意見を交え、綿密に練った。あとは本事業の計画、予算等の作成を交え作業を確認し分担し、各作業の一定した進捗具合を保ってきた。

パネラーとして参加協力頂いたのは、  
一期生 鈴木 行子 塩谷 真澄  
長谷川 知 益谷 千佳  
三期生 王 頤

(敬称略)

コーディネーターとして同窓会役員の方の近  
仲之さん(一期生)にお願いした。

学園祭は、十一月八、九日であり、同窓会は、九日(日)の午後二時からオレンジホールアネックスを学園祭実行委員より一時間ばかり借りて開催し、オレンジホールでは、ライブ等あった中、五十人程の卒業生、在校生、先生、大学事務職員の方々にお越し頂き皆様より褒めのアンケートを頂いた。最後に、ご協力頂きました学園祭実行委員、心配頂きました先生方のおかげのもと無事盛会のうちに学園祭に参加できました事に對し厚くお礼申し上げますとともに、後日また詳しく同窓会機関紙にて報告させていただきます。ご容赦の程お願い申し上げます。

# 安藤 弘先生

## ご逝去

敬和学園大学の開学以来四年間にわたり、歴史学や比較宗教思想を担当し、一般教育主任を務めてこられた安藤弘先生が九月十四日永眠された。七十二歳であった。

先生は四国のご出身で、東京大学ならびに東京大学大学院で西洋史、とくに古代ギリシア史を専攻した方で、奥様もお嬢様も東大ご出身である。田原嗣郎教授とは学生時代からのご友人であった。一九六五年新潟大学に赴任し、教養部でずっと教えてこられた。一九九一年、定年退官とともに敬和学園大学に移って頂いた。

学生時代から無教会の鶴田正治先生の門下で熱心に聖書を学び、内村鑑三にかんする論考も発表しておられる。東京小平での葬儀は無教会の友人が司式された。敬和学園大学を代表して北垣学長が出席した。

安藤先生はやさしくて真摯な人格者だった。しかし頑固な一面もあって、譲れないことは譲れないとして、ねばり強く論陣を張られた。書をよくし、ペンの方も太字の達筆だった。宮沢賢治研究にも情熱をそそぎ、感動的な講義をされた。しかし晩年は病気がちで、とうとうお別れ講義をして頂く機会が永遠に失われてしまったことが残念である。



## キャンパス日誌

### 7月

- 18日 前期末試験（～25日まで）
- 22日 理事会
- 26日 夏期休暇（～9/24日まで）  
TOEIC試験  
図書館職員採用一次試験（応募総数100名を超える）  
キャンパスクリーンアップ
- 28日 キャンパスクリーンアップ
- 29日 北垣学長講演「地域と大学」新発田市生涯学習センター

### 8月

- 1日 事務職員人事異動発令  
図書館職員採用二次試験
- 2日 オープンキャンパス
- 8日 職員研修旅行 南イリノイ大学新潟校視察
- 26日 北垣学長ノースウェスタン大学訪問  
名誉学位L.H.D.受領
- 27日 北垣学長カリフォルニア州立大学サンパナティエノ校表敬  
訪問（～29日まで）  
新発田祭り民謡流し参加



8/27 新発田祭り民謡流し▶

### 9月

- 1日 図書館職員 杉原有紀 採用辞令交付
- 14日 安藤弘元本学教授召天
- 16日 福祉体験学習週間（～19日まで）
- 19日 公開講座・新発田「日本の教育の危機」北垣宗治学長  
「ふれあいバラエティー」



9/19 ふれあい  
バラエティー

- 22日 理事会
- 25日 後期講義開始
- 26日 公開講座・新発田  
「国境を越えることの教育的意味」  
東北大学 西澤昭夫教授



10/3 公開講座・新発田▶  
田原嗣郎教授

### 10月

- 3日 公開講座・新発田  
「江戸時代の教育」  
田原嗣郎教授

- 10日 公開講座・新発田  
「対談」小学校教育 ―アメリカ、イギリス、日本―  
山田耕太教授、ジョイ・ウィリアムズ講師  
司会 北垣宗治学長
- 14日 第7回 学長・知事懇談会
- 15日 「保護者との就職懇談会」新潟東映ホテル
- 17日 公開講座・新発田「イギリスの海軍史」  
明治大学 山崎昂一教授
- 22日 体育館・校舎棟礎式  
敬和フォーラム「シェイクスピアにおける神話の扱い」  
金山愛子講師



◀10/22  
体育館・校舎棟礎式

- 24日 公開講座・新発田「教育と宗教の接点」  
敬和学園高等学校 角田三郎寮長
- 25日 編入学試験

### 11月

- 5日 教授会
- 6日 体育館・校舎棟引き渡し
- 7日 公開講座・新発田「教育事情あれこれ」  
新発田市生涯学習センター 鈴木博信センター長
- 8日 第7回 敬和祭（～9日まで）



▲11/8 第7回 敬和祭 茶道部 茶誦

- 14日 公開講座・新発田「高校教育と大学教育の接点」  
北嶋藤郷教授
- 14日 第6回リポート「NGO活動と地球倫理」（15日まで）
- 19日 「企業との就職懇談会」ホテル新潟
- 23日 推薦入試
- 26日 教授会
- 28日 理事会
- 29日 体育館・校舎棟献堂式

### 12月

- 3日 敬和フォーラム「政治・国家・権力」  
小野 哲教授
- 10日 教授会
- 19日 クリスマス燭火礼拝、キャロリング
- 20日 大学・高等学校合同クリスマス研修会
- 24日 冬期休暇（～1/8日まで）